

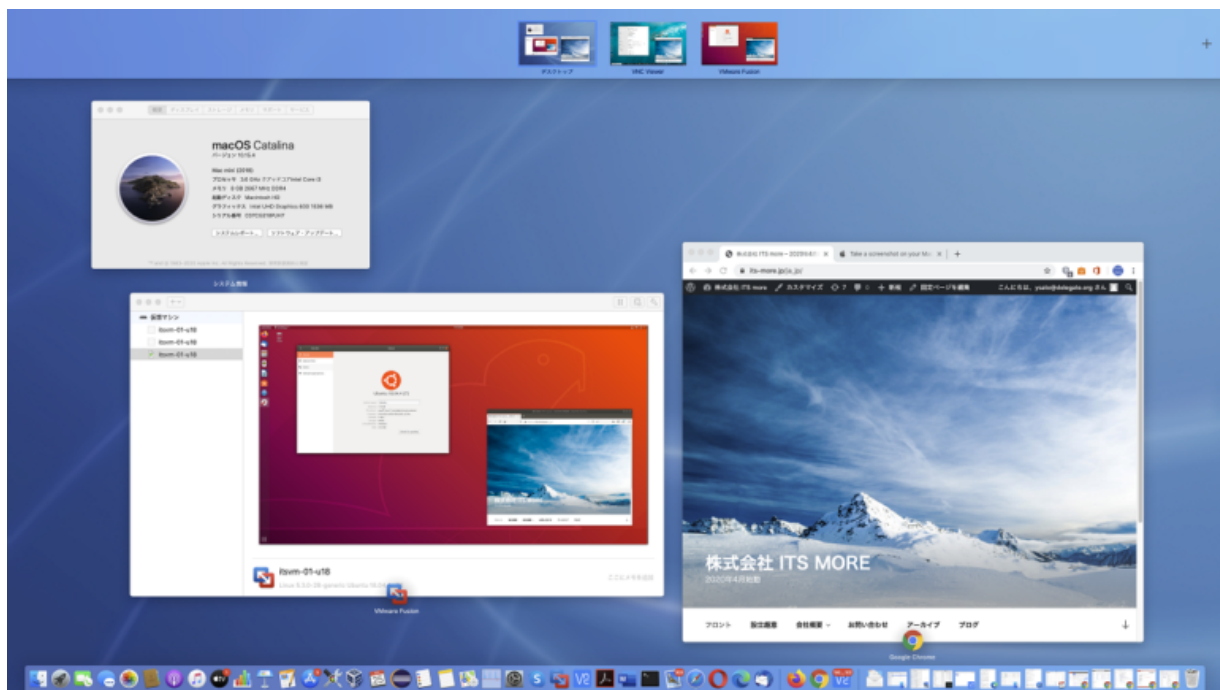
株式会社 ITS MORE

2020年4月始動

2020年4月25日 投稿者: YSATO@DELEGATE.ORG

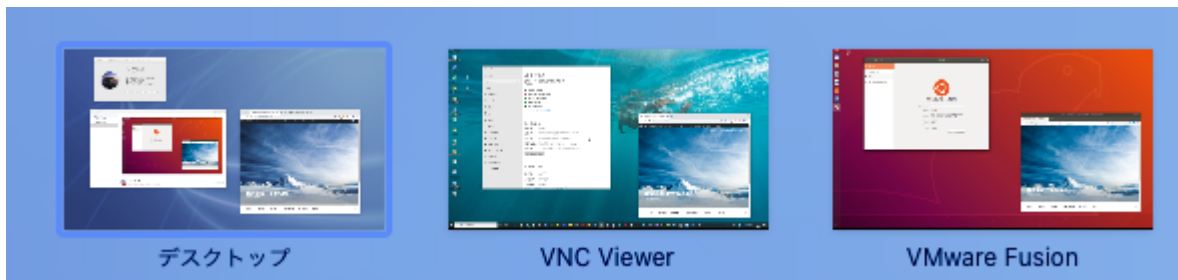
Mac Mission Incomplete

と、そういうわけで、Mac の Mission Control 機能を使うことで、Mac と Windows と、ついでに Linux を、サクサクっと切り替えられるようになりました。こんな感じ↓



Mission Control を呼び出したデスクトップスクリーン

上の画像のスクリーン（これはMacのデスクトップ画面です）の上部にある帯の部分（以下、リボンと呼びます）が Mission Control の制御画面です。拡大するとこんなふう↓



Mission Control のリボン (デスクトップサムネール一覧)

各デスクトップのアイコン（ライブなサムネール）のキャプションにあるように、左が実Macのデスクトップ、中央がVNC経由でのWindowsのリモートデスクトップ、右がVMwareの上に乗せたLinux仮想マシンのデスクトップです。

フルスクリーン状態にしたVNCやVMの画面を通常ウィンドウ状態に戻すのにも、このリボンの中で、サムネールの左上隅をクリックすればOKです（下記のようにドラッグ・アウトしてもOK）。もう「仮想デスクトップ全画面モードから抜けるホットキーを忘れた…」というような窮地はなくなります。ゲストマシン側に何かをインストールする必要もありません。

フルスクリーン状態のON/OFF

仮想デスクトップは普通フルスクリーンで使いますから、そのために、仮想デスクトップのウィンドウ状態⇔仮想デスクトップのフルスクリーン状態、という切り替えをします。これをMission Controlでやるのは単純です。

A. ウィンドウをフルスクリーン化するには

- ①Mission Controlのリボンを開く
- ②ウィンドウをリボンにドラッグ・イン

B. フルスクリーンからウィンドウに戻すには

- ①Mission Controlのリボンを開く
- ②スクリーンのサムネールをリボンからドラッグ・アウト

あきれてしまうほどカンタンですね。やはりMacOS X最高！です。

上記A.についてのちょっとした注意事項は、ドラッグ・インしてしばらく、追加が可能な状態になる（+印が出てくる）までに、時間がかかる（0.5～1秒程度、たぶん時間設定は可能）ということです。誤操作防止のためのディレイなんでしょうけど、イラチの誤操作を誘発しそうですね（笑）

なお、上記はVNCとVMのウィンドウを例に書きましたが、操作手順は通常のアプリのウィンドウでも同様です。ですのでこれは一般的にアプリの「**ウィンドウを最大化**」して使い、「**最大化したウィンドウ間を切り替える**」方法の、とてもスマートな置き換えなのだと思います。これは、十年前のMacにはありませんでした。大きな進歩です。

フルスクリーン化するとDockが非表示状態になりますが（それが自然ですが）、マウスポインタをスクリーン最下部に置けば、ひょっこりDockが出てきます。ただし、通常のアプリではスクリーン最上部にマウスポインタを置くと、隠れていたMacの天井帯（なんて呼ぶんでしょう？ドロップダウンするやつ）がぬっと現れますが、VNCアプリやVMアプリではそうなりません。

てことは、通常のアプリは最果てのマウスポインタ位置情報（イベント？）をスルーする、VNCやVMはそれも捕まえる、ということでしょうか。VMゲストOSがプアだと天井帯は出るので、ゲストOSが掴んでいるということかと思います。VNCは「コントロールキーのフォワードをしない」なんていうドラスティックなオプションでなく、「スクリーンの天井状態を知らせない」とすれば弊害も少なく汎用性は高いんじゃないかと思うんですが。

あのMac天井帯は、あれがないとアプリを外界と交渉させられないですから、普通の（フルスクリーン制御を必要としない）アプリでは必須ですね。ですがあの、Macの画面が10数インチだった時代の、今の一つのウィンドウより小さかった時代のコンセプトを未だに引きずっているという大間違いから脱却できないのは、Macの最大の弱みですね。マジ不愉快というか、肉体的に苦痛。先代の遺訓でもあるのかしら？

Macには、実にスマートでない部分が、あの天井帯、Dock、Finderにあります（一方、システム環境設定での集中管理は悪くないし、個別アプリからもインフェースを踏襲するのは良いと思いますが）。最近のデフォルトの壁紙とか、MacMiniのデザインとか、「macOS」とか言う表記も嫌いです。そんなネーミングにはOSXより前のゲロ吐きOS（OS?）に似た匂いを感じます。退化です。センスの悪い（というか私が好きになったMacOSXとセンスの違う）リーダーが中枢に居るのかもしれませんが。そういう劣化は、旧称「Office 365」にも「Azure」にも「Google Sites」にも見られました。

Dockがアプリによらず常にアクセス可能、というならば、Mission Control は独自のリボンを持つのではなく、Dockに入れるという手もあったのではないかと思います。たとえばDockの中に仮想デスクトップコーナーがあり、その中のデスクトップアイコンをクリックすると切り替えられる、というような。通常のウィンドウアイコンのエリアからデスクトップコーナーにドラッグするとフルスクリーン・デスクトップに切り替わるとか。まあ、Mission Control はもっと便利にすることができるみたいだから、Dockに束縛されるべきじゃなかったとは思いますが。

デスクトップの切り替え方

デスクトップの直接切り替え（Mission Control画面に遷移しないで直接遷移する）をコントロールキーでやるのはあきらめました。リモートのデスクトップ上でコントロールキーを使わなければならない場面が多すぎるからです。

そこで、片手で頬杖をついてマウスだけで切り替えるという、ありがちな場面を想定し、以下の安直かつ副作用の無い手順を、わが社での標準作法としようかと思います

C. デスクトップを切り替えるには

- ①ホットコーナーにマウスポインタを移動する
⇒Mission Controlのリボンが開く(ように設定しておく)
- ②リボンの中の所望のデスクトップをクリックする
⇒そのデスクトップが開く

惜しいのは、Mission Control では、デスクトップ切り替えのためのキーを定義できない(らしい)事です。「コントロール+矢印」というホットキーは、(私の場合) WindowsやLinuxで使う事が無いので、これだけをホスト(大家)である Mac の Mission Control がピンハネしてくれるように設定できると良いのですが…
まあ、Mac ウィザードの方ならいくらでもやりようがあるんでしょうけど…

ただ、今回の作業で、Windowsでの日本語/英語入力の切り替えに、(私の大嫌いな)専用キーを使わないで済ます方法を薄々理解したので、その点は収穫でした。でも、Windowsで日本語入力を必要とすることは、今後無いか、激減するのでしょうか。

なお、ここに書いたことについて、「Linuxなら簡単にできる」とか「Windowsでもほにゃららすればできる」というような話には、あまり興味がありません。なにか手や労力を加えて良いなら、それはWindowsとかが生まれるはるか前、30年前のX Windowの各種「ウィンドウマネジャ」の時代に既に出来ていたことです。私は工場出荷時のスッピン状態で出来ない事は評価できません。そもそも結論として、私にとっては「Macが最高」でなければならぬからです（笑）

2020-0425 sato@izmoh

参考

[1] 画面の切り替え：<https://support.apple.com/ja-jp/guide/mac-help/mh14112/mac>

[2] 画面のキャプチャ：<https://support.apple.com/en-us/HT201361>